

「寄付金」の趣旨説明

この度は、私たちの申し出を快く受け入れて頂き、大変に有難うございます。私達がなぜ「秋工ラグビー部なのか？」…それを少しお話させていただきますと、今から33年前になりますが、昭和63年に秋工がV15を成し遂げた年、郡山北工ラグビー部は愛好会から苦闘を超えて10年でようやく部に昇格しました。その記念にOB会事業として、その年の高校ラグビー日本一の監督の御講演を頂きたく、お願いに秋田工業高校を初めて訪ねました。ノーアポ、にも拘わらず快く対応して下さったのが、その時教頭の五味先生とラグビー部長の近先生でした。この年の8月、お盆の時期合宿などで、お忙しい中にもかかわらず黒澤光弘監督の御講演が郡山で実現しました。

この御縁をきっかけに北工ラグビーのこれからは、歴史と伝統ある秋工ラグビーに学んで進んでもらいたいと考えました。

そのあとは、私をはじめ郡山北工ラグビー部へのご指導を頂いて現在に至っております。お陰様で郡山北工は4度の花園出場を果たすことが出来ました。この事に対し黒澤先生そして、秋田の皆様から心から感謝申し上げます。

30年以上もお世話になっている秋工に、私たちが出来ることは何か…?と御恩返しになることをしたいと考えていた時でした。折良く令和2年4月18日・ABS秋田放送で放映された *秋工ラグビー創部95年特別番組『紫白の猛き徴・秋工ラグビー日本一の伝統と挑戦』の録画を観させて頂き、優勝から遠ざかっている現状においての苦悩、そして黒澤先生をはじめ関係者の熱き思いを感じ受けました。

そこで私達でもV16に向けて何かお役に立てること、今できることは何かと考えた末、秋工ラグビー部員へのメディカル支援や経済支援などの目的で【資金寄付】できないか、との考えに至り、黒澤先生に御相談したわけです。



これまでに私も、郡山北工をコーチしてきた時代に、部員のケガや経済援助に心を痛めた経験がありました。その事を思い起こし寄付の考えに至りました。

この度、私達の寄付が基金として秋工ラグビー後援会の会計に加えて頂き、そしてまた「小幡基金」という名称にまでして頂き身に余る事で…大変恐縮しております。

この場をお借りして、後援会長の瀬田川榮一様はじめ役員の方々に厚く御礼を申し上げます。

これからも私達は、後援会員のひとりとして、「秋工ラグビーV16」を強く願って、そして応援させて頂きたいと思っています。

2021年6月5日

小幡 孝
小幡 洋子

